

Trunc-head[®]を用いた プレキャストPC床版の合理化継手工法

■Trunc-headを用いたプレキャストPC床版の合理化継手工法とは

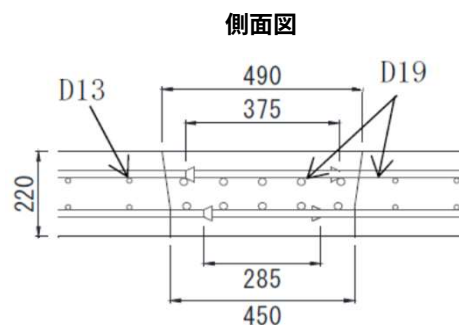
Trunc-head（トランクヘッド）を用いたプレキャストPC床版の合理化継手工法とは、鋼桁橋の劣化したコンクリート床版の取替工事で、工程短縮や耐久性向上、省人化を図るため開発された接合構造です。プレキャストPC床版の橋軸方向の接合部に、先端に円錐台形状の突起を設けた鉄筋「Trunc-head」を用いて定着させる接合構造を採用することにより、施工の合理化を図ります。



床版継手部の配筋状況

■特徴

- プレキャストPC床版の継手構造として、従来の鉄筋ループ継手などの構造と同等以上の性能を有しています。
- 床版継手部に配置する直角方向鉄筋は、架設時に床版から突出しているTrunc-headに仮置きしておくことができるため、手間を要する床版設置後の挿入が省略でき、効率よく安全に施工することが可能です。



床版継手部の構造図

■性能確認試験

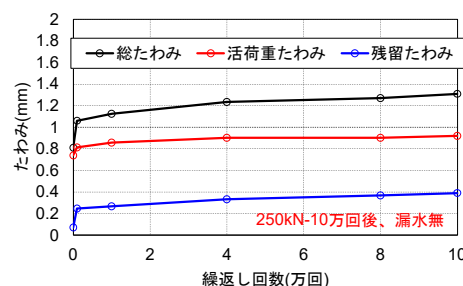
高速道路会社の試験法（NEXCO試験法442）に則り、輪荷重走行試験を実施しました。輪荷重250kNで10万回載荷し、その後水張試験を実施し、耐用年数100年相当の性能を有していることを確認しました。（NEXCOから性能証明書受領）



輪荷重走行試験状況



250kN、10万回載荷後の水張試験状況
（漏水なし）



継手部のたわみと載荷回数